

平成20年2月

安宅正幸 学位論文審査要旨

主査	村脇義和
副主査	井藤久雄
同	池口正英

主論文

Topoisomerase I protein expression and prognosis of patients with colorectal cancer

(結腸直腸癌患者におけるトポイソメラーゼ I 発現とその予後について)

(著者：安宅正幸、池口正英、山本学、井上雅史、谷田孝、岡伸一、堅野国幸)

平成19年12月 Yonago Acta medica 50巻 81頁～87頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、結腸直腸癌におけるトポイソメラーゼ I の発現を免疫組織学的に検討し、臨床所見と比較したものである。その結果、癌腫におけるトポイソメラーゼ I 発現は、癌の進行と相関があり、結腸直腸癌患者の予後予測因子となりうる可能性が示唆された。一方、原発巣のトポイソメラーゼ I 発現陽性例では、再発時においてCPT-11に対する感受性が高いことが示され、進行・再発結腸直腸癌患者に対するCPT-11を用いた化学療法に対する反応性を予測する上で、癌腫におけるトポイソメラーゼ I 発現は重要な指標となりうることが示唆された。本論文の内容は、進行・再発結腸直腸癌患者に対する化学療法の効果予測に大きく寄与するものであり、明らかに学術の水準を高めたものと認められる。